

〔徒然草下〕西大寺靜然上人腰かゞまり、眉白く、誠にとくたけたる有さまにて、内裏へ參られたりけるを、西園寺内大臣殿あなたうとのけしきやとて、信仰のきそくありければ、資朝卿これを見て、年のよりたるに候と申されけり、後日にむく犬の、あさましく、老さらばひて、毛はげたるをひかせて、此氣色たうとくみえて候とて、内府へ參らせられたりけるとぞ。

〔倭名類聚抄十八〕獨。犴。唐韻云犴、鹿皮獨犴皮云々、犴音如簡、此名所出亦未詳、胡地野犬名也。

〔箋注倭名類聚抄七〕延喜民部式下、載交易雜物、陸奥出羽二國並云、葦鹿皮獨犴皮數隨得、此所

引即是。○中略。廣韻云、豺胡地野狗似狐而小、或作犴、按說文、豺胡地野狗、又載犴字云、豺或从犬、孫氏

蓋本之、

〔延喜式二十三〕交易雜物

陸奥國葦鹿皮獨犴皮 出羽國熊皮廿張、葦鹿皮

瑞犬

〔延喜式二十〕祥瑞

豹犬、鉅口赤身、露犬、能飛食虎、右大瑞

犬渡來

〔日本書紀二十九〕八年十月甲子、新羅遣阿淦金項那、沙淦薩藥生朝貢也、調物金銀鐵鼎錦布皮、馬狗、騾駱駝之類十餘種、十四年五月辛未、高向朝臣麻呂、都努朝臣牛飼等、至自新羅、乃學問僧觀常雲

觀從至之、新羅王獻物馬二疋、犬三頭、鸚鵡二隻、鵠二隻及種々寶物。

朱鳥元年四月戊子、新羅進調、從筑紫貢上、細馬一疋、騾一頭、犬二狗、并百餘種。

〔續日本紀十一〕天長四年五月庚申、金長孫羅使等拜朝、進蜀狗一口、獵狗一口、

〔類聚國史百九十四〕天長元年四月丙申、覽越前國所進渤海國信物、并大使貞泰等別貢物、又契丹大

狗、○狗、一、二口、狻子二口、在前進之、辛丑、幸神泉苑、試令渤海狗、○狗、一、逐苑中鹿、中途而休焉、

〔駿府政事錄〕慶長十七年二月三日、於遠江國堺川二川山、有御鹿狩、凡列卒五六千人、以弓鐵炮驅之、